

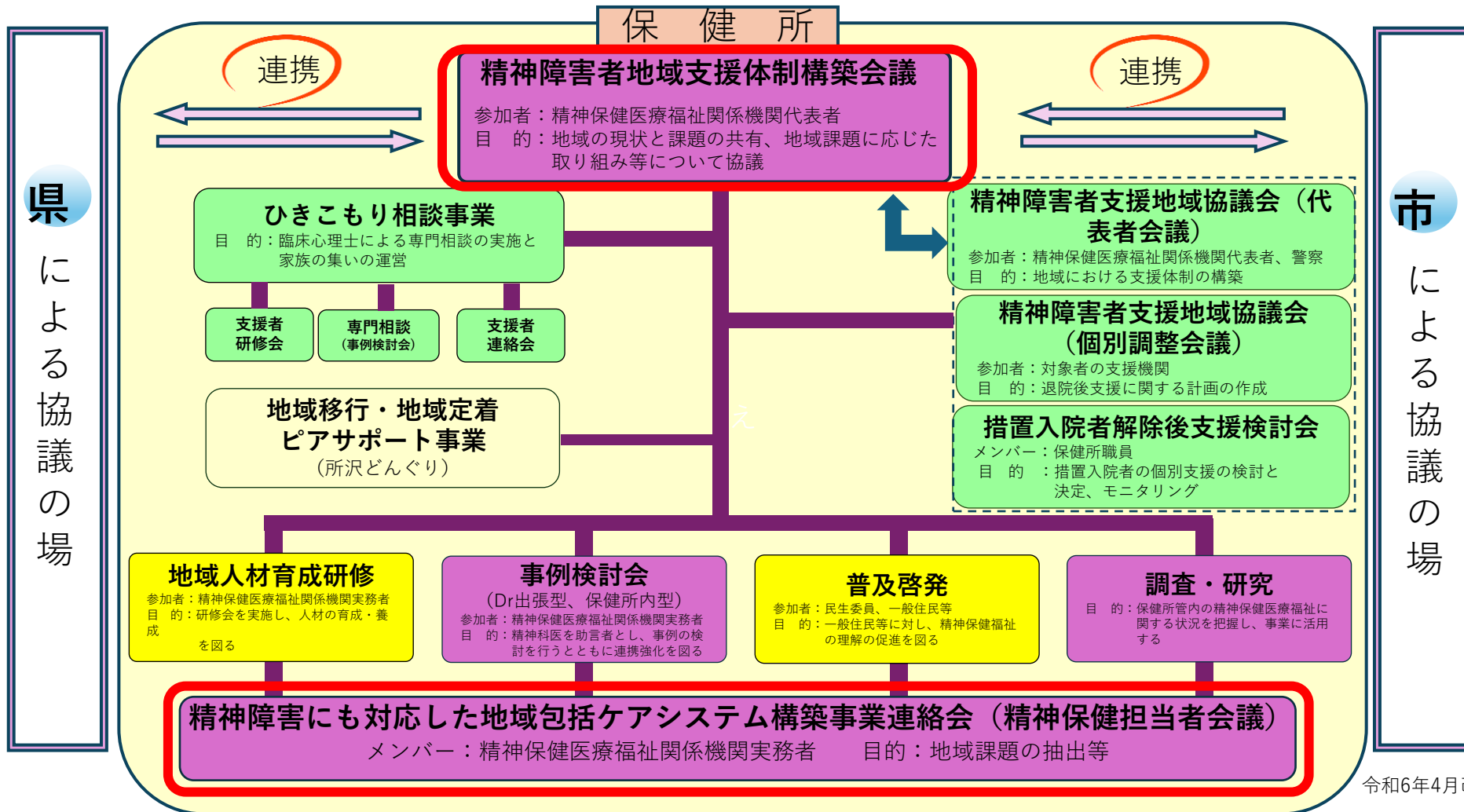
狭山保健所の取組

～ブリーフミーティング・後方転送支援について～

狭山保健所 保健予防推進担当 都筑かほり

狭山保健所精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築事業の体制

～住み慣れた地域で安心して医療・支援が受けられることを目指して～



令和6年4月改変

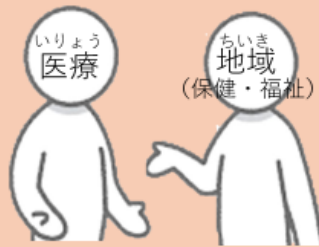
狭山保健所 早期連携事業について

～ブリーフミーティング～

ブリーフミーティングの誕生

～住み慣れた地域で安心して医療・支援が受けられることを目指して～ *退院支援編*

協議の場



課題

- 医療機関の多忙による時間的制約、カンファレンス開催の難しさ、医療機関と地域機関における「見立て」、「時間軸」のずれがある。
- 本人に情報が共有されているのか、相談窓口や会議への参加方法が不明瞭であること、ゼロからの関わりにおけるサービスや相談内容の不明確さがある。

アイデア

- teamsなどのシステムを活用し、早期の情報共有の場を設ける。
- 近年、オンライン活用したケース会議が増加しており、移動時間の削減や参加しやすさから、積極的に活用している
- ソーシャルワーカーによる面談への地域参加、早期情報共有、地域医療連携会議への立ち合いを試みる。

南飯能病院

狭山保健所

障害福祉
保健行政

ブリーフミーティング | Teams (WEB会議) |

ブリーフミーティング | Teams (WEB会議) |

－早期連携を図る仕組みづくり－

目的 障害保健福祉行政が市民の救急入院患者を把握し、
早期に医療機関と連携強化を図ることで円滑な地域移行を目指す

対象 保健所が介入した救急入院事例（措置入院・医療保護入院）

時期 入院してから2週間以内

特徴 WEB会議 少人数（3～4名） 短時間（20～30分程度）

内容 ケース概要 治療目標 今後予想されるケースワーク等の調整

南飯能病院
(協力病院)

精神保健福祉士
看護師
医師 等

狭山保健所

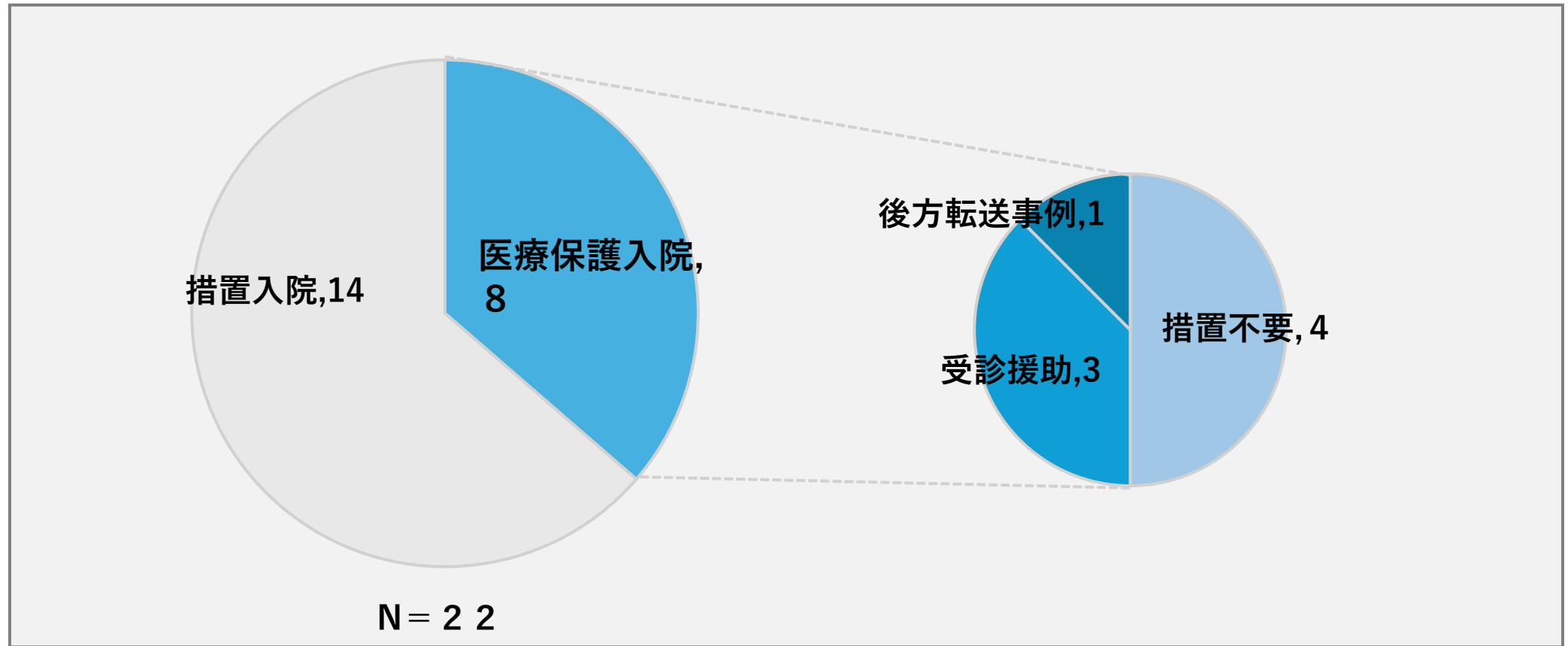
保健師
精神保健福祉士 等

障害保健
福祉行政

保健師
精神保健福祉士 等

ブリーフミーティングを実施した事例の内訳

(令和7年6月第1回連絡会から3月末時点)



参加機関：医療機関、保健所、保健センター、障害福祉課、こども家庭センター
生活保護担当課、地域包括支援センター、相談支援事業所等

参加者の声



医療機関

早めに支援者が顔合わせできることで、今後の支援につながると感じた。

試行錯誤の過程やケース概要を入院直後のタイミングで共有できるのは有用だと思う。



障害保健福祉行政



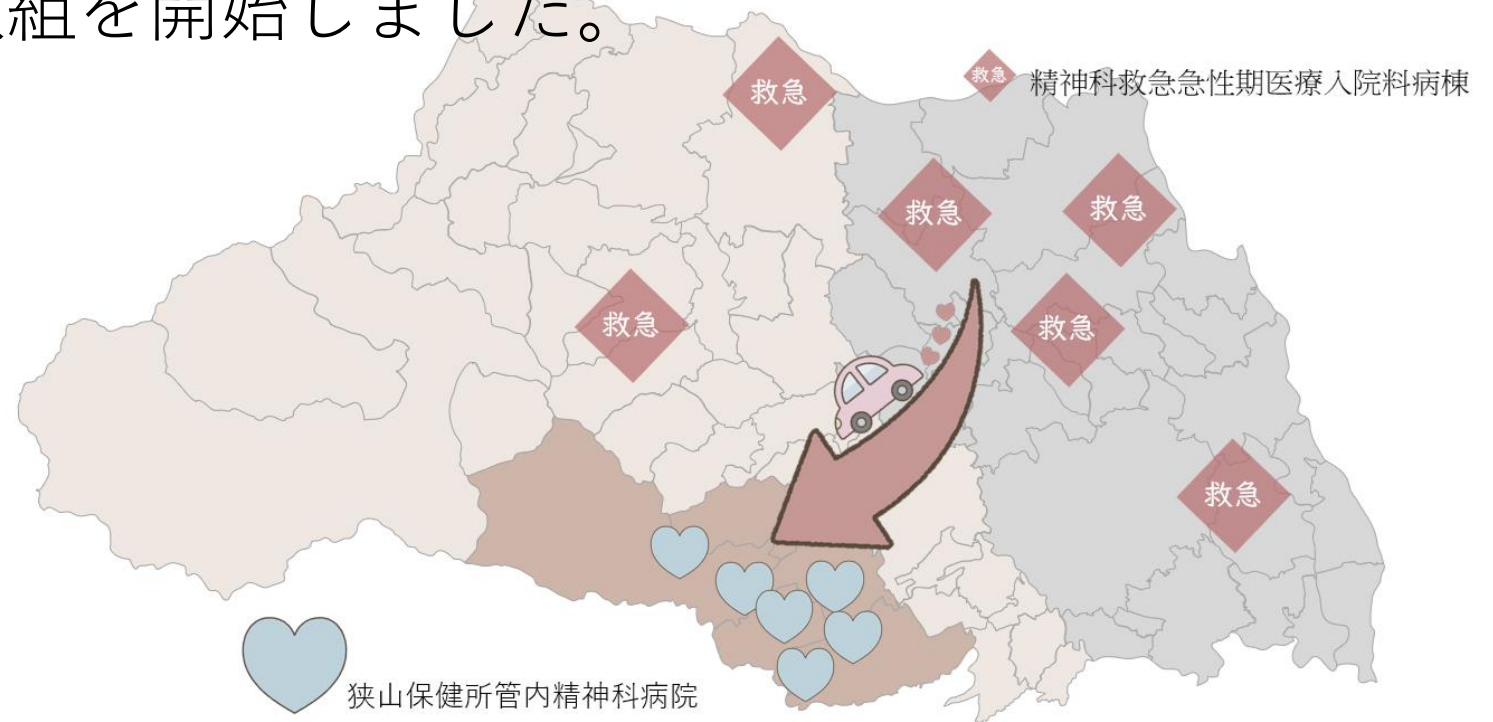
相談支援事業所

今後は、保健所が関わっていない事例でもできるとよい。

狭山保健所 後方転送支援について

後方転送支援の取組

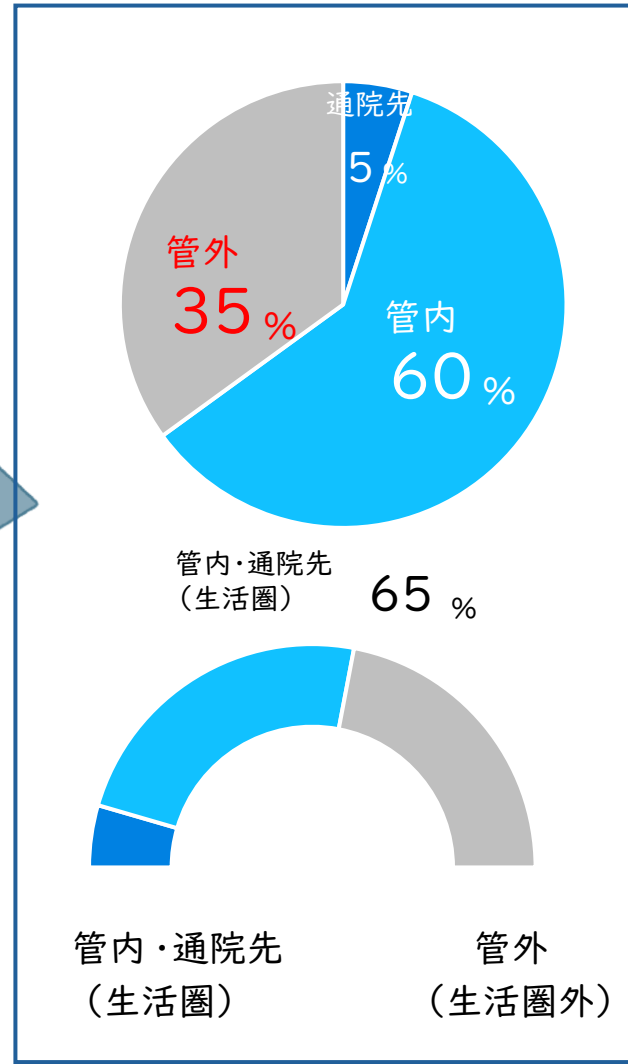
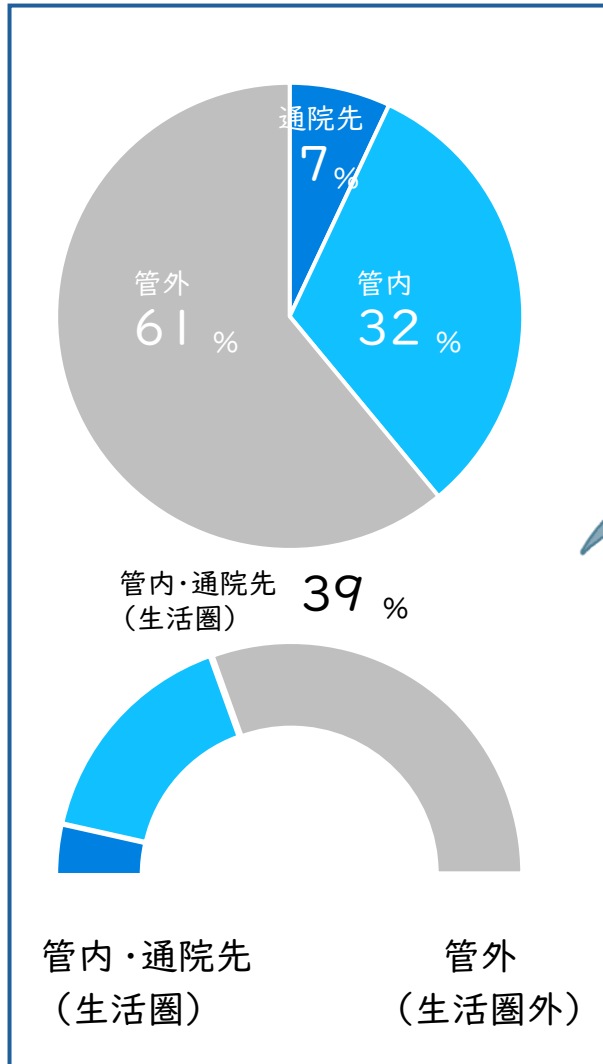
- 令和6年度精神障害者支援地域協議会（代表者会議）にて、後方転送の必要性について評価を受け、今年度から後方転送支援の取組を開始しました。



狭山保健所精神科緊急対応事例（生活圏・圏外）の推移

令和2年度 N = 216

令和7年度上半期 N = 142



管内・通院先病院の協力により、**令和3年度から令和7年度にかけて60%程度で推移しており、目標値は概ね維持している。**

今後も生活圏6割を維持する一方生活圏外に入院した方への課題や支援方法について検討した。

Point

令和7年度上半期に生活圏外の救急病院で緊急対応をした35%を調査したところ、入院者の60%が**夜間・休日に救急病院(精神科救急急性期医療入院料病棟)**に入院していることが分かった。

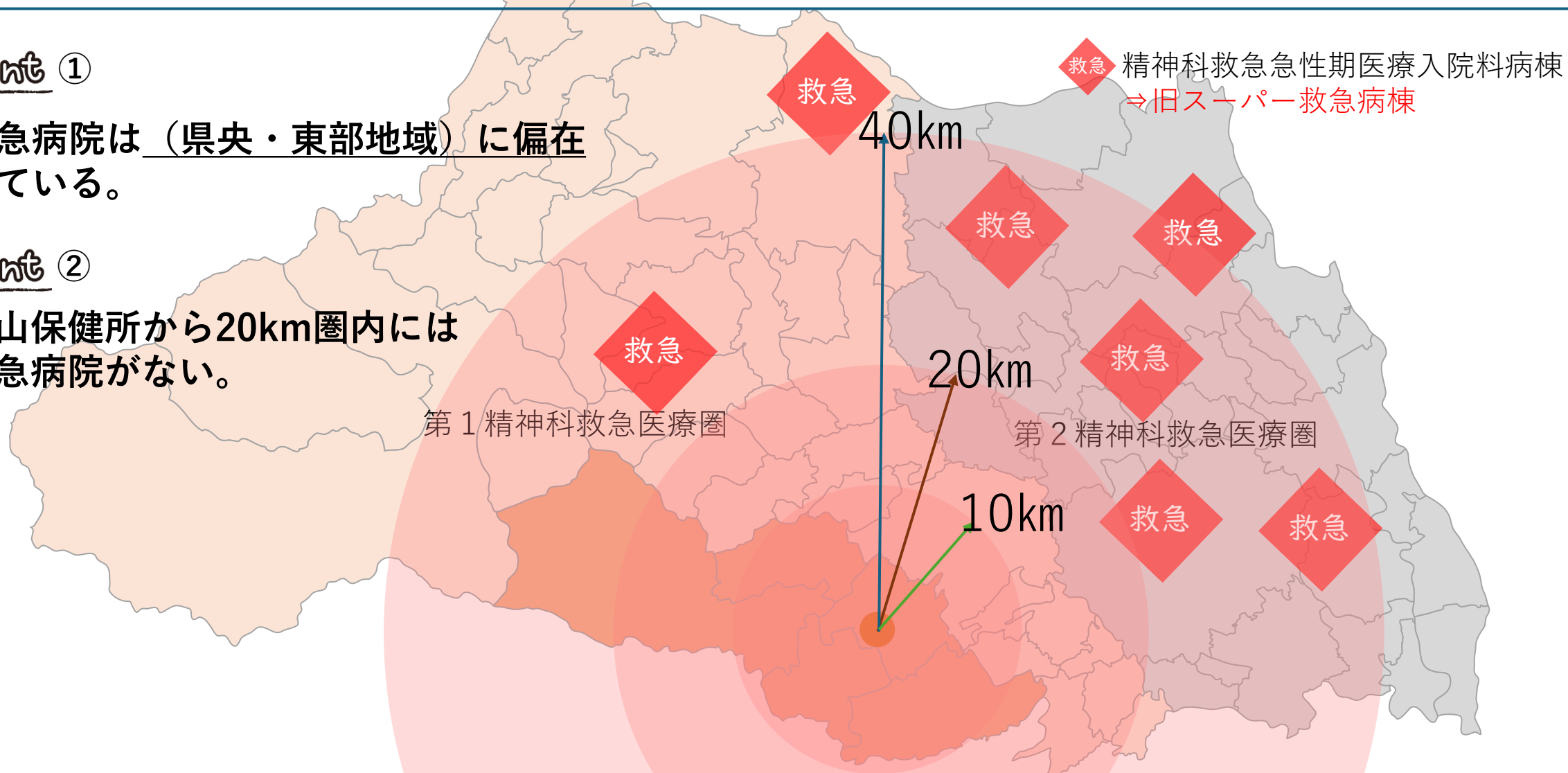
狭山保健所から救急病院までの距離

Point ①

救急病院は (県央・東部地域) に偏在している。

Point ②

狭山保健所から20km圏内には救急病院がない。



情報センター・救急急性期医療入院料病棟の概要

精神科救急情報センター

○休日・夜間に精神科救急事例（23条通報含む）の相談・医療機関調整窓口
相談時間…平日は17時～翌日8時30分 休日は8時30分～翌日8時30分

○輪番病院

休日昼間…2病院×2床 平日・休日夜間…2病院×1床

診療受付時間…日中は9時～16時 夜間は21時まで

* 上記の時間外については常時対応施設が対応する

効率性の観点から、2つの精神科医療圏に分割して実施する

精神科救急急性期医療入院料病棟（旧スーパー救急病棟）

○対象は措置入院・緊急措置入院・応急入院

○手厚い医療体制

○急性期治療に特化（早期退院支援体制）

○24時間365日対応（精神科医療体制加算）

救急病院から後方転送

遠方精神科救急入院者の地域移行する際の課題



患者・家族の負担大きい



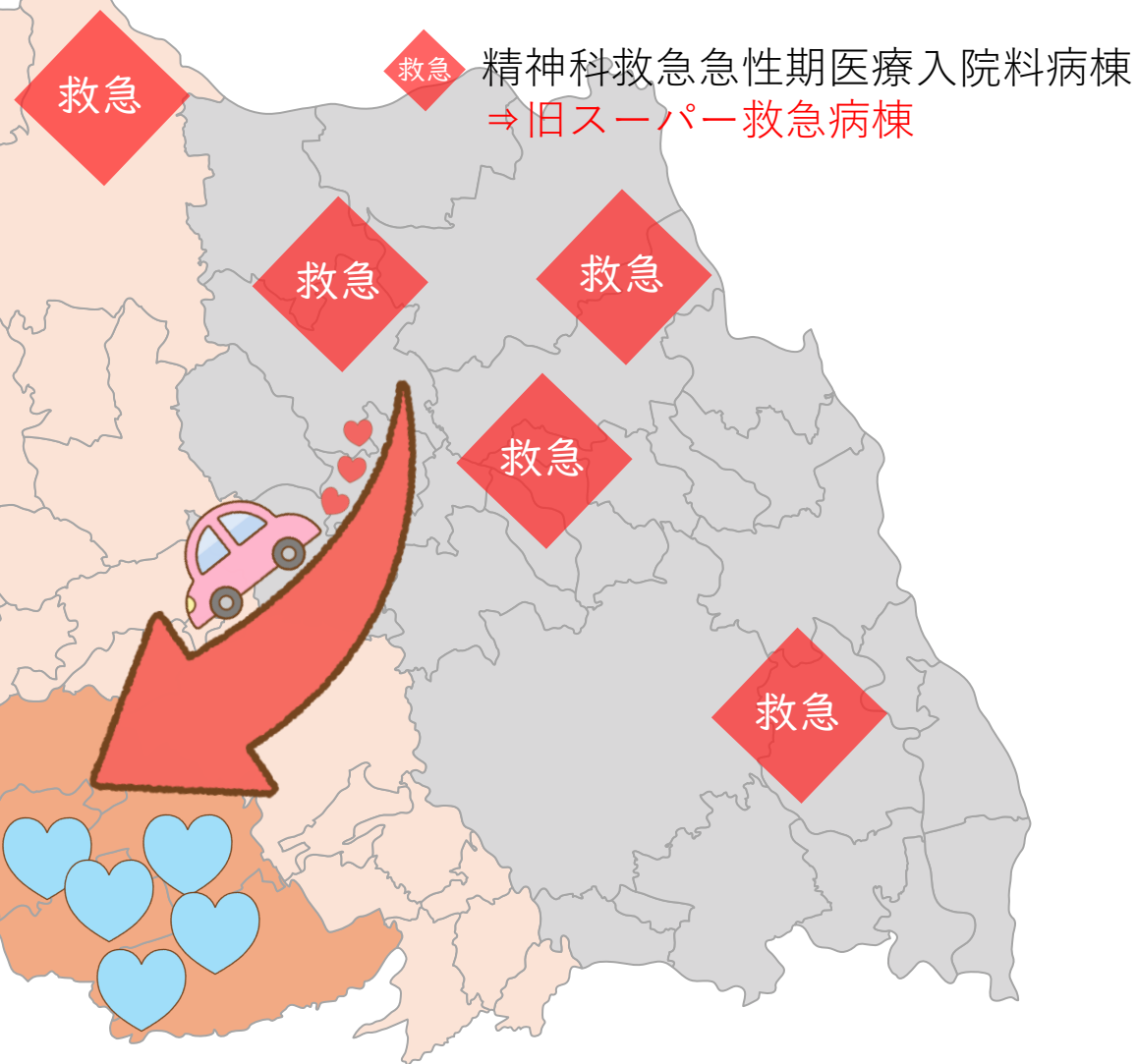
救急病院・地域事業所の
サービス調整に関する負担が大きい

救急病院から地域の精神科病院への後方転送

住み慣れた街で退院までの治療を受けることで
スムーズで安定した地域移行が行われやすくな
ると考えます。

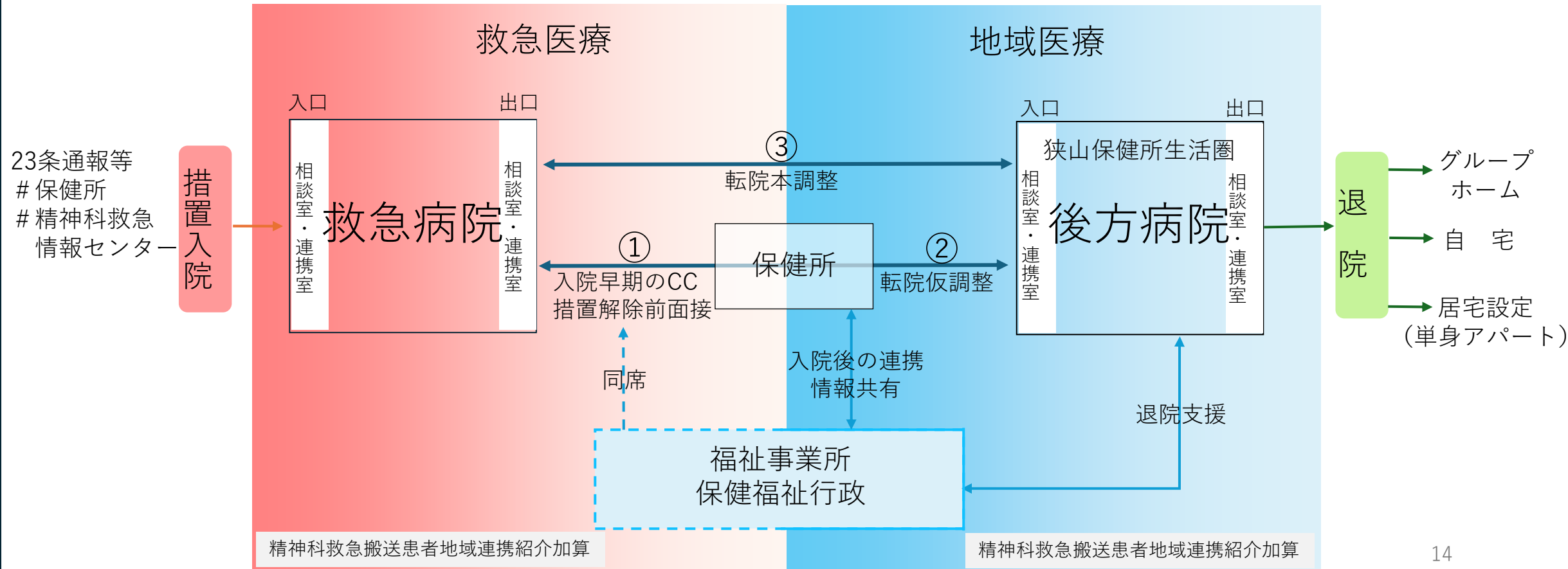


狭山保健所管内精神科病院



後方転送支援

対象 救急病院が措置解除後に地域医療機関への転院が必要と判断した者
方法 保健所が救急医療機関と地域医療機関のマッチングをサポートする
目的 地域医療機関に転院することで、本人及びその家族・地域支援者が時間的・心理的負担を軽減しスムーズで効率的な地域移行を目指す



事業実施にいたるまで～地域の変化～

令和3年以前

- ▶ 緊急入院受け入れは輪番中心
- ▶ 遠方病院からの退院支援の主軸は保健所のみ



保健所を取り巻く状況

- ▶ 管内医療機関とのやり取りはワーカーが中心
- ▶ 現場の声は拾えるが、意見反映の仕組みが不十分



- ▶ 実務者による実態に即したアイデア出し **ブリーフミーティングの誕生に寄与**
課題に対して経年的に取組み、連絡会にて共有と検討を繰り返し実施
- ▶ 代表者による組織同士の合意形成を図る **後方転送支援の誕生に寄与**
病院長へ毎年ヒアリングを実施し、連絡会の報告と病院長に“にも”包括に関する課題や意向を確認し、代表者会議で共有する



多層的連携が実現し、地域のニーズに沿った事業展開の素地が整う

現在（令和8年）

- ▶ 管内・生活圏域での緊急入院の受け入れが主流に
- ▶ ブリーフミーティングで早期から地域の支援者と協働支援体制を確立



現場の声を反映できる体制が整いつつある

まとめ・評価

ブリーフミーティング

参加した支援者から肯定的な意見が寄せられたことから、継続の意義があり、実効性も期待できる。

今後の目標

- ▶ 管内外の医療機関に対してブリーフミーティングをはじめ、オンラインミーティングの開催を相談していく。
- ▶ モニタリングを実施していく中で、管内の医療機関による主体的な取り組みが行えるよう検討する。

後方転送支援

- ▶ 住み慣れた地域でケースワークが可能
- ▶ 本人・家族・支援者の負担軽減

今後の課題

転院による退院支援の停滞を予防するための方策を検討

狭山保健所の取組

丁寧な個別支援

我がごととしての協働

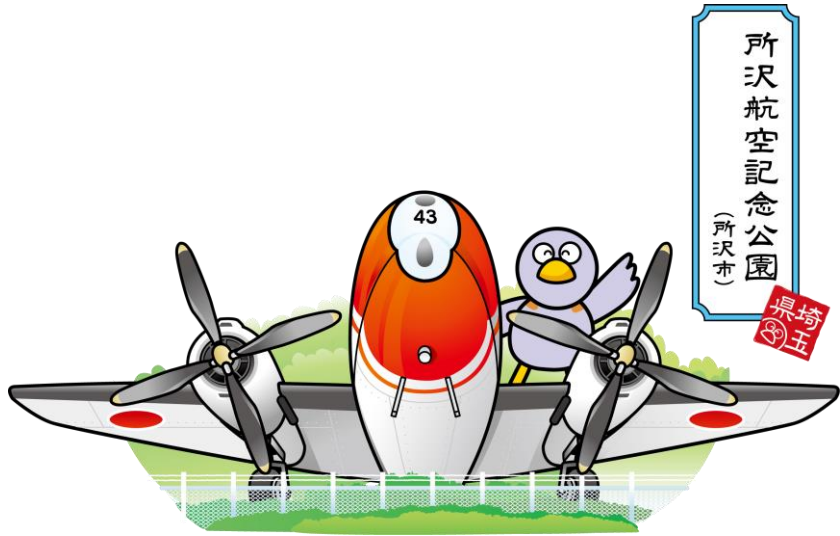
顔の見える関係

取組内容

- ▶ 「住み慣れた地域で安心した医療・支援を受けられることを目指して」を目標に、3か年計画での事業の見直しを行いながら、2期目
- ▶ 他事業・個別支援においても事業目標を意識しながら実施した
- ▶ 昨年度から入院支援も継続しながら退院支援に注力
- ▶ 継続的に課題解決に取り組んできた

成果

- ▶ 地域における早期連携の意識が着実に醸成
- ▶ 地域連携体制の強化を実現



ご清聴ありがとうございました